

SUMMARY OF THE
REPORT ON THE 2ND WHO GLOBAL FORUM ON
INNOVATION FOR AGEING POPULATIONS

「第2回 WHOグローバルフォーラム：高齢者のためのイノベーション」
2015年10月7日～9日 （兵庫県 神戸市）

レポート：要旨（日本語訳）

IMAGINE
TOMORROW

KOBE, JAPAN | 7–9 OCTOBER 2015

第2回 WHOグローバルフォーラム：高齢者のためのイノベーション

2015 年 10 月 7 日～9 日 （兵庫県 神戸市）

レポート：要旨

「第2回 WHO グローバルフォーラム：高齢者のためのイノベーション」は、これまでにない協力者間の対話を引き出すこと、また、高齢者がよりよく生きるために役立つイノベーションを促進することを目的に開催されました。

略称： #GFIAP2015

設立： 2013 年、2 年毎の開催

形式： WHO 神戸センター（国連専門機関である WHO のシンクタンク）の内部に組織するプラットフォーム（討議の場）の共有

場所： 日本 （兵庫県 神戸市）

組織の長： 所長 Mr Alex Ross

ウェブサイト： http://www.who.int/kobe_centre/en/

「第2回 WHO グローバルフォーラム：高齢者のためのイノベーション」の概要

対話のとりまとめ

先頃発表された持続可能な開発目標（SDGs）には、あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進するという目標が盛り込まれています。つまりそれは、誰もが取り残されることなくということです。SDGs の達成には、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）、すなわち、予防、健康増進、介護、リハビリテーション、緩和ケアサービスなど、一連の質の高い保健サービスを誰もがどこでも高額な費用負担を被らずに確実に利用できるようにするための取り組みが必要とされています。各国には、それぞれの保健・社会のサービス供給体制を高齢者を含むあらゆる人々のニーズに対応するようデザイン、転換、調整する義務があります。高齢化及びその関連する諸問題は、現在、公衆衛生上の、また、政策上の優先課題として認識されています。例えば、認知症は、高齢者が直面する問題として深刻さを増していると同時に、低・中所得国（LMICs）では、スティグマや介護の負担など認知症の増加による影響が大きく広がりつつあります。高齢化と関連課題に取り組む国々を支援するため、2015 年 10 月、WHO は「高齢化と健康に関するワールド・レポート」¹ を発表、世界中に暮らす高齢者の生活の向上を目指し、各国が講じるべき具体策を提案するための枠組みを提供しました。このワールド・レポートは、UHC 及び SDGs のアジェンダに沿って、各国政府が今後いかに、地域社会に暮らす高齢者にできる限り寄り添った形で、保健制度を、また、保健セクターや他の社会セクターを、より協調的かつ総合的なアプローチ

第2回 WHOグローバルフォーラム：高齢者のためのイノベーション

2015 年 10 月 7 日～9 日 （兵庫県 神戸市）

レポート：要旨

をもって医療・ケアサービスの提供が可能になるよう変革できうるかについて考察する土台となるでしょう。

機会の制限につながる高齢者に対する既成概念

期待に反して、寿命の延伸は健康の延伸を意味するわけではありません。それゆえに、高齢者に対する既成概念を打破し、高齢者はもとよりすべての人々のニーズをよりよく理解することが肝要です。そういったニーズを適切に取り入れることを通じて、人々が必要とする場所が必要とする時に、必要なケアをよりよく享受することが可能になるのです。高齢者は、社会のその他の人々と同じく、健康や機能の状態、熱意や興味、また、能力やサポート体制において多様性に富んでいます。高齢者についての課題を「問題」視するのではなく解決策の一部として捉えるためには、現在および将来の高齢者層への認識を改めることが不可欠です。加齢に伴いがちな虚弱や障害といったイメージは、高齢者のニーズに対する取り組みの推進にあたって正しいイメージではありませんが、一方で、虚弱や障害を抱える高齢者を置き去りにすることがあってはなりません。加齢は、しばしば固定概念的に、人が急激に不活発かつ依存度を増すような時期として捉えられがちです。これまで高齢者のためにという名目でなされてきたことは、おしなべて、高齢者とともにではなく、高齢者に対してというスタンスに基づくものであり、これは一般的な社会の受け止め方といえるでしょう。家族やコミュニティにとって、互いにとって、社会にとって、また、イノベーションにとって、高齢者はかけがえのない役割を担う一員としてではなく、受益者として待遇されているのです。

今求められているのは、当事者たる高齢者の意見をよりよく反映するための方策であり、高齢者自身の課題解決への参画および積極的な参加です。高齢者が暮らす環境や使用するツールが適切かつ効果的であることを確実にするためには、高齢者の生活向上を目指すという目的に取り組むスタート段階から、高齢者自身の参画が不可欠なのです。高齢者は貴重なリソースであり、多くの場合、高齢者自身もその経験とスキルを活かすことのできる社会貢献の場を求めています。加齢によりもたらされる機会は、付随するコストをはるかにしのぐものです。

高齢者がそれぞれが暮らす場所で上手く老いるために

高齢者はどのようなことを望んでいるでしょう。高齢者を含むほとんどの人々は住み慣れた場所、つまり、それぞれが暮らす住まいや家族の家で、それぞれがよく知る人々に、信頼で

第2回 WHOグローバルフォーラム：高齢者のためのイノベーション

2015 年 10 月 7 日～9 日 （兵庫県 神戸市）

レポート：要旨

きる人々に囲まれて、周りの人々との関わりを保ちながら年齢を重ねることを希望しています。

WHO の「高齢化と健康に関するワールド・レポート」²では、住み慣れた場所でのサクセスフル・エイジングは、高齢者がそれぞれの年齢や収入や備え持つキャパシティーにかかわらず、住み慣れた家やコミュニティで安全に自立して快適に暮らすための能力として位置づけています。

病気により高齢者の機能的能力は減退し、認知機能や身体機能にも衰えをきたします。高齢者が機能的に自活が難しいと判断され施設に収容されるというケースは、現在多くの国々で見られる傾向です。一方、低所得国の多くで見られるエイジング・イン・プレイスは、選択肢としてではなく、公的な社会福祉ケアサービスが十分に整備されておらず、また、乏しいリソースなどが原因で受け入れ施設が存在しないという事情に起因しており、こういった国々に暮らす高齢者が地域社会レベルで適切なサポートを受けているとはいえません。これらの問題の深刻化の原因は、社会システムと保健システムの統合や調整がうまくなされていないことにあります。

現行の保健制度や地域社会の構造は、もともと急性症状や社会危機の際を想定して構築されたものであるため、長期的な在宅ケアやサポートを提供するには不十分であるのが現状です。感染症対策を主眼にデザインされたシステムは、「高齢者の希望や新たな現実に対応」するためには決して適切とはいえません。たとえば、高齢者は同時に複数の慢性症状を有しがちであることから同時に服用すべき薬剤の数もおのずと増加します－ここに、服薬アドヒアランスの不足という重要なリスクファクターが生じます。服薬アドヒアランスは、目下、広く世界中の高齢者に影響を及ぼしている重大な課題です。服薬アドヒアランスの向上には、保健システムの中の異なる側面における協調的な取り組みが必要となるため、その良し悪しは保健システムの有効性、無効性を示すものとして捉えモニターすることができます。

高齢者本位の統合医療の提供を目指すためには、また、このようなケアを誰もが財政破綻の心配なく確実に享受できるようにするためには、個々の疾病をベースとした現行の治療モデルから脱却することが極めて重要になります。健康な高齢化のための現在及び将来の課題に対応するには、社会的、技術的、さらには、政策的なイノベーションへの取り組みが急務となっています。サクセスフル・エイジング・イン・プレイスの実現には、機能的能力及び個人－環境適合を最大限に高めるためのより広範な目標のもとに、我々は共に下記の分野におけるイノベーションに取り組む必要があります。

第2回 WHOグローバルフォーラム：高齢者のためのイノベーション

2015 年 10 月 7 日～9 日 （兵庫県 神戸市）

レポート：要旨

PEOPLE / 人々 – 地域密着型・在宅型の新たなケア・サポートのモデルにおいて、高齢者のサポートならびにケア提供のために人々の参加を促し人材を養成

PERSON-CENTRED SERVICES / ひと中心のサービス – 高齢者が利用可能な保健・社会ケアサービスの統合と向上

PLACES / 場所 – 高齢者が安全にそれぞれの人生のさらなる前進を目指せるようなエイジ・フレンドリーな環境の創出

PRODUCTS / プロダクツ – 高齢者をサポートするための技術的解決策の適合、開発、評価

POLICIES / 政策 – 変化の把握及び促進のための政策の導入

高齢者の福利は、その身体的健康の状態についてのみならず、個々が置かれている環境でいかに交流を保持し、周囲のサポートや機能維持のためのケアを享受できているかという視点で捉えられるべきです。健康な高齢化を理解するために、また、高齢者にとって重要な事柄を定義し評価するためには新しいコンセプトが必要とされています。変わりゆく人口情勢に対処するための持続可能な解決策は、高齢者にととまらずあらゆる人々に恩恵をもたらす共通の価値観なのです。

保健サービス・ケアを誰もが確実に利用できるようにするために

介護やエイジング・イン・プレイスに関する責任の所在を家族や友人のみに委譲すべきでないことにほぼ等しく、「公益」に関する説明責任を産業だけに委譲することはできません。急速に高齢化する人口や疫学的な転換に関連する社会及び個人が直面する課題や解決策は、単一セクターだけでは力の及ばない領域です。WHO ならびに各国政府は、利害関係者を組織し、より総合的な対応策を阻んでいる関連部門の縦割り型手法を改めるためには最もふさわしい立場にあります。

保健介入政策は、その普遍性を確かなものにするために、多部門間のアプローチたること、事情や個々のニーズに即したものであること、また、公平性に基づいていることが必須となります。高齢者のため、ひいては、すべての人々のため、統合ケア・サポートのビジョンを明確にするためには、セクターの壁を越えた協働が不可欠です。現在および将来の高齢者の生活の向上を目指すとき、誰もが責任と役割を担っているのです。

高齢者は、前途に控える人口転換や社会的変革の渦中にあるとともに、目下 WHO が取り組んでいるプログラムやアジェンダ、討議や課題の核心でもあります。WHO は、すべての高

第2回 WHOグローバルフォーラム：高齢者のためのイノベーション

2015 年 10 月 7 日～9 日 （兵庫県 神戸市）

レポート：要旨

高齢者に活動の場を設け、参加を促し、機能や認知の低下に対する管理能力を養い、同時に、それぞれの健康と尊厳を維持するための取り組みを継続していきます。このビジョンを実現するための包括的な枠組みは、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）に変化をもたらします。UHC は、予防から治療、緩和ケアにわたり包括的かつ高水準の医療サービスを提供するため、保健システムのデザイン、実施、監視における改革を担っており、これはすべての人々に行き届くやり方で達成されることが求められています。先頃採択された持続可能な開発目標（SDGs）においても、この野心的かつ必要不可欠な UHC の構想：「あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」（目標 3）が支持されています。

UHC 達成への過程をサポートするために、WHO 神戸センターはこのほど、新たな 10 年の研究戦略 2016–2026「革新的なソリューションを研究し、政策や事業へと発展させることで、持続可能で高齢社会に対応するユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を実現する」を策定しました。WHO 神戸センターは、全 WHO の同僚とともに、すべての高齢者が暮らす場所にかかわらずサクセスフル・エイジング・イン・プレイスを選択できる未来を創るための計画立案、課題への取り組みを継続していきます。

参 照

¹ World report on ageing and health. Geneva: World Health Organization; 2015
(<http://www.who.int/ageing/publications/world-report-2015/en/>)

² World report on ageing and health. Geneva: World Health Organization; 2015
(<http://www.who.int/ageing/publications/world-report-2015/en/>)

* * *

WHO 健康開発総合研究センター（WHO 神戸センター・WKC）

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1

I.H.D. センタービル 9 階

電話: (078) 230-3100

FAX: (078) 230-3178

電子メール: wkc@who.int

URL: http://www.who.int/kobe_centre/

